

1. 社会・治安情勢

- (1) リオデジャネイロ州全域で拳銃，機関銃，手榴弾等を使用した殺人，強盗等の凶悪事件が引き続き多発している。特に，近年，リオデジャネイロ市内及び周辺に約1,000箇所存在するといわれるファベラ（貧民街）を中心に，麻薬密売組織間の銃器を使用した抗争が頻発し，治安に重大な影響を与えてきた。これを受け，軍警察は，2008年に最初の軍警察治安構築部隊（UPP）をドナ・マルタ地区のファベラに設置し，以降，大規模な制圧作戦を継続している（2017年4月現在，リオ市内に計39のUPPを設置し，約270のファベラを管轄）。

積極的なUPPの導入，活用により2008年以降リオの治安は一旦改善に向かったものの，2013年頃より伯経済の低迷を背景として，再び悪化している。特に2016年に入ってから，リオ州の財政破綻によって警察当局が治安対策のために必要な人的・物的手当を十分に施すことが困難となったこともあり，特にオリンピック・パラリンピックが終了した昨年後半から急激に体感治安は悪化している。

また，犯罪捜査を担当する州文民警察が本年1月から4月までの間，未払賃金等の支払いと職場環境の改善を求めるストライキを実施し，この間，殺人，強盗致傷といった凶悪犯罪以外の被害届け受理が為されず，強盗（怪我なし）被害に遭った邦人の被害届けが適正に受理されない等の問題が生じた（本年4月7日にストは解除）。

- (2) UPPをはじめとした治安当局による麻薬密売組織対策活動において度々銃撃戦が発生しているほか，治安当局の取締りに反発するファベラ住民と軍警察との間の抗争も活発化しており，流れ弾による一般市民への被害も散見される。また，依然として貧困層の若者による「アハスタウン（地引き網）」と呼ばれる集団強盗事件が市内中心部，海岸及び幹線道路沿いで後を絶たない。治安当局もこれらの取締りを強化しているが，健全育成の方針を主眼とした少年法の影響により，逮捕した被疑少年の多くがすぐに釈放されてしまう等，警察による取締りが治安改善に直結していない現状にある。
- (3) リオ州政府としても，治安を担当する公安局が中心となり，UPPと街頭警備強化を二本柱として，2013年から再び悪化傾向にある一般治安の改善に取り組んでいるが，現状では，州の財政難による警察力の低下（超過勤務の抑制，装備・資器材の使用制限等）にも起因して，2016年初頭から強盗等の凶悪犯罪の増加に歯止めをかけられない状況にある。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) 第3四半期総括

リオ州公安局統計院（ISP）によれば、2016年中にリオ市内で発生した強盗事件の発生件数は10万3,151件で、前年比で約20%増加しただけでなく、過去10年間で初めて10万人を超える結果となった。また、殺人事件に関しても、2016年中に1,329件の発生がみられ、前年比で124件増加している。第4四半期中、観光地である旧市街地（セントロ地区）の水道橋、カテドラル（大聖堂）周辺において、邦人が複数人に囲まれ、現金等を脅し取られるケースが相次いでおり、引き続き路上強盗に対する注意が必要である。

また、昨年中、リオ市内における交通機関内強盗（バスジャック事件が多数を占める）の発生が前年比で約2倍に増加しており、引き続き市バスの利用には十分な注意が必要である。

なお、2015年のリオ市の人口10万人当たりの犯罪発生率は、日本との比較で殺人が約25倍（2014年は23倍）、強盗は約660倍（2014年は510倍）と極めて高い比率で推移している。

3. リオ州犯罪発生状況 2017年1月（前年同月比増減数）

	リオ市	リオ州
殺人	476 (+75)	222 (+24)
強姦	409 (+3)	154 (-10)
商業施設強盗	333 (-286)	165 (-117)
住居侵入強盗	81 (-42)	29 (-32)
車両強盗	4207 (+847)	1978 (+349)
路上強盗	5146 (-2116)	2755 (-1004)
交通機関内強盗	831 (+6)	417 (-45)
携帯電話強盗	1138 (-205)	585 (-11)
強盗総数	14229 (-1475)	7248 (-972)
窃盗総数	10071 (-5825)	5904 (-3099)

4. ZONA SUL 犯罪発生状況 2017年1月（前年同月比増減数）

フラメンゴ・ボタフォゴ地区

殺人	1 (-1)
商業施設強盗	18 (+1)
住居侵入強盗	2 (-2)
車両強盗	21 (-3)
路上強盗	97 (-27)
交通機関内強盗	7 (-5)
携帯電話強盗	29 (-2)
強盗総数	197 (-53)

窃盗総数	3 1 3 (- 2 3 6)
コパカバーナ地区	
殺人	2 (+ 2)
商業施設強盗	6 (- 1 0)
住居侵入強盗	1 (- 2)
車両強盗	3 (± 0)
路上強盗	6 5 (+ 6)
交通機関内強盗	6 (+ 2)
携帯電話強盗	3 2 (+ 1 0)
強盗総数	1 8 1 (+ 7)
窃盗総数	7 5 7 (- 4 6 4)
イパネマ・レブロン地区	
殺人	1 (- 4)
商業施設強盗	1 (- 4)
住居侵入強盗	3 (+ 2)
車両強盗	7 (- 3)
路上強盗	6 4 (- 6)
交通機関内強盗	8 (± 0)
携帯電話強盗	1 4 (± 0)
強盗総数	1 2 1 (- 8)
窃盗総数	4 4 7 (- 2 7 4)

5. 一般事件等（邦人の安全に係るものを抜粋）

（1）イタリア人観光客が殺害

12月8日（木）午後0時頃、イタリア人観光客2名がオートバイ（2台）でコルコバードの丘（キリスト像）を訪れ、帰りに誤ってサンタテレザ地区のファベラである Prazeres 地区に入り込んだところ、うち1名が同ファベラ内の麻薬密売組織に身柄を拘束された。拘束されたイタリア人（52歳）は、頭と腕をけん銃で撃たれ、殺害された。

（2）リオ市内ボタフォゴ地区のショッピングセンター前で発砲事件

リオ州軍警察第2警察本部によれば、1月8日（日）午後8時45分頃、武装した男数名が上記ショッピングセンター内の宝石店「Vivara」に押し入り、その後逃走を企てた際に、ショッピングセンター入り口前で発砲した。これに対して警備員が応戦し、銃撃戦となった。発生時間帯には、同ショッピングセンター前は多くの客で賑わっており、突然の銃撃戦により、周囲は逃げ惑う人々でパニックとなった。

銃撃戦によるけが人はなかったが、犯人は逃走しており、警察では犯人の

行方を追っている。

(3) 抗議デモの発生

2月1日(水)午前から午後にかけて、セントロ地区の州議会議事堂(通称チラデンテス宮殿)前において、州政府職員の賃金、年金等に関する法案の改訂に反対する大規模な抗議デモが実施された。抗議デモを通じて、一部の過激なデモ参加者が火炎瓶の投擲を行い、これに対して軍警察がゴム弾や催涙弾等で応戦した。午後2時頃、州議会議事堂近くのリオ・ブランコ(Rio Blanco)大通りにおいて、覆面の男達がバスに放火し、大きな火災となったため、現場周辺はパニックとなった。

リオ州軍警察では、今後も同様のデモが継続する可能性があるとして、セントロ地区周辺のデモに対する警戒を強化する方針。

(4) 文民警察のストライキ

リオ州文民警察労働組合(Sindelpol-RJ)が中心となり、1月17日(火)から、観光客の被害届を受理する観光警察署を含む、ほぼ全ての文民警察署でストライキを実施した(4月7日解除)。ストの間、リオ州における文民警察の活動は通常の30%の人員で行われ、急を要する被害を除いて被害届の受理は行われなかった。

(5) コパカバーナ地区で銃撃戦

1月27日正午頃、リオ市コパカバーナ地区ノッサ・セニョーラ・デ・コパカバーナ(Nossa Senhora de Copacabana)通り及びジョアキン・ナブコ(Joaquin Nabuco)通りの交差点(ブラデスコ銀行前)において、出待ち強盗犯人と軍警察官との間で銃撃戦が発生し、軍警察官1名が銃撃を受けて死亡した。第19軍警察本部によれば、死亡した警察官(私服)は、上記銀行で多額の現金を引き下ろし、銀行を出ようとしたところ、オートバイに乗った2人組の出待ち強盗犯人に襲われ、同警察官が抵抗したことから銃撃戦に発展したとのこと。

(6) フラメンゴ地区で銃撃戦が発生

2月19日午後11時頃、リオ市フラメンゴ地区フェルナンド・オゾーリオ(Fernando Osorio)通り(日本料理店「MITSUO」付近)において、車両強盗犯人と軍警察官との間で銃撃戦(目撃者によれば少なくとも5発の銃声が聞こえたとのこと)が発生し、犯人が銃撃を受けて死亡した。発砲した軍警察官も負傷し、付近住民に助けを求め、救急車で病院に搬送された。この事件で流れ弾による被害はなかった。

(7) イパネマ地区海岸で殺人事件が発生

3月5日(日)未明、リオ市イパネマ地区海岸9番ポスト付近のキオスク前において、被害者(男性・20歳)が友人らとブロッコ(路上パレード)を楽しんでいたところ、犯人グループ(目撃者によれば8人程度)が近づいてきて、金品を渡すよう要求した。被害者らが強硬に抵抗したところ、両グ

ループの間で騒動が発生し、その中で上記被害者は背中をナイフで刺され、砂浜の上に倒れた。被害者は直ちに病院に搬送されたが、その後死亡が確認された。

(8) ボタフォゴ地区のショッピングセンター前で銃撃戦が発生

3月4日(土)午後7時30分頃、リオ市ボタフォゴ地区のショッピングセンター「Rio・Sul」前トンネル付近(コパカバーナ方面に向かう車線上)において、上記盗難車両2台を追跡していた州軍警察と犯人グループとの間で銃撃戦が発生した。犯人の乗った2台の盗難車両のうち1台(3人乗車)はそのまま逃走し、もう1台は警察によって確保された。確保された車両に乗車していた犯人2名は頭に銃撃を受けるなどして負傷し、ガベア地区のMiguel Couto市立病院に緊急搬送された。銃声により、危険を感じた多くの車両が逆走しようとするなど、周辺の道路では大きな混乱が生じた。

(9) コパカバーナ地区で人質立てこもり事件が発生

3月7日(火)午前9時30分頃、リオ市コパカバーナ地区Barata Ribeiro通り94番地の雑貨店「Lojas Americanas」に4人の強盗犯人が押し入り、現金等を強奪しようとしたが、付近をパトロールしていた州軍警察が店内に入ろうとしてきたことから、4人は同店の従業員1名を人質に店内に立て籠もった。州軍警察が犯人側と交渉を続けた結果、犯人らは投降し、午前10時頃、州軍警察が身柄を確保後、第12文民警察書に引致した。警察では犯人らが所持していた回転式拳銃(リボルバー)及び手製の爆発物(現在鑑識中)

(10) リオ市内ボタフォゴ地区のショッピングセンターで強盗事件

3月21日(火)午後7時頃、ボタフォゴ地区のショッピングセンター「Rio Sul」内の宝石店に強盗が押し入り、現金等を奪って逃走した。発砲等ははく、怪我人もなかった。

※今年に入ってから、ショッピングセンター内の宝石店を標的とした強盗事件が相次いでおり(当館が把握しているだけで6件発生)、注意が必要。

(11) イパネマ地区飲食店で傷害致死事件が発生

3月26日(日)午前4時30分頃、リオ市イパネマ地区ヴィニシウス・デ・モライス(Vinisius de Moraes)通り75番地に所在の飲食店「Barzin Rio Live」において、アルゼンチン人観光客(3人)とブラジル人(5人)との間で口論となった。その後、上記店舗前の歩道上で殴り合いの喧嘩に発展し、ブラジル人男性1名が所持していた杖でアルゼンチン人男性(28歳)殴打した。アルゼンチン人男性は倒れる際、歩道の側溝に強く頭を打った。アルゼンチン人男性はその場で意識を失い、病院に運ばれたが、その後死亡が確認された。

(12) 3月27日(月)早朝、リオ市内鉄道(Supervia)列車内(リオ市西部地区・Olinda 駅と Ricardo de Albuquerque 駅との間を走行中)において、列

車内に強盗が押し入り、乗客に対して金品を要求した。目撃者によれば、抵抗した乗客に対して、強盗犯人が発砲し、被害者は腕に銃弾を受けた。Supervia 職員が救急車を要請し、被害者は近くの病院に搬送された。強盗犯人は数人で、発砲した後逃走した。警察では行方を追っている。

6. 邦人被害

(1) 窃盗事件

1月1日(日)午前0時頃、邦人女性がリオ市コパカバーナ海岸のアトランチカ通り(Prado Junior通りとの交差点付近)において、ヘベイリオン(年越し花火大会)を見物していたところ、所持していたスマートフォンがすり取られていることに気付いた。

(2) 窃盗事件

1月1日(日)午後10時頃、邦人男性がリオ市コパカバーナ地区のアトランチカ通りを歩いていたところ、後方から自転車に乗った男が猛スピードで近づいてきた後、被害者が所持していたバッグ(現金、スマートフォン等在中)を引ったくり、そのまま逃走した。

(3) 強盗事件

1月4日(水)午後6時頃、邦人観光客(女性)2名がリオ市イパネマ地区の地下鉄ジェネラル・オーゾリオ駅を出て、同地区バラオン・ダ・トッヘ通り(Rua Barao de Torre)にさしかかったところ、Jose Linhares 市立学校前において、自転車に乗った3名の男に囲まれ、うち一人がナイフを用いて所持品を渡すよう要求した。被害者がスマートフォン、カメラ等を渡すと、犯人らは立ち去った。邦人2名に怪我はなかった。

(4) 窃盗事件

1月31日(火)午後10時頃、邦人が知人との会食のためイパネマ地区の飲食店に運転手付きの車両で訪れ、その間、運転手はレブロン地区の上記屋外駐車場で待機していた。運転手が用を足すため15分ほど駐車場を離れ、同所に戻ってみると、車両の鍵がこじ開けられた状態になっており、車内にあった邦人及び運転手のカバンが盗まれていることに気付いた。邦人のカバンの中には現金、私物等が入っていた。

(5) 2月27日(月)午前7時30分頃、リオ市内ラパ地区水道橋前広場近くの路上において、日本人女性2名(いずれも観光客)が数人の男に囲まれ、1名がパスポート、現金等が入ったウェストポーチを強取された。もう一人の女性がウェストポーチを取り返そうと男らを追いかけたところ、さらに別のグループに囲まれて、所持していたスマートフォンを強取された。日本人女性2名に怪我はなかった。

7. テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は認知していない。

8. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害は確認されていない。

2017年1月中、リオ州内で短時間誘拐7件（うちリオ市5件）、脅迫84件（うちリオ市49件）が発生しており、いずれも高い水準で推移している。